



「ピチピチと鳴るかな 天の神様の言つ通り・・・」子供の数え歌の一種です。この中にも

あるように神様は、天(天界)に住んでいます。天界は全く憂いも苦しみもな<sup>い</sup>安穩な世界

です。仏教がおける前のインドの人は来世には天上界に生まれて苦労がない生活を送るこ

とを理想としていました。しかしお釈迦さま(仏さま)は、私たちの生きているこの世界は

苦に満ちた世界(娑婆世界)だが、苦しむ世界に生きているからこそ、心の安楽や幸せを感

じることができるのである。そして、進んで世の為人の爲に善い行いをすることで(利他

行)、人間としての真の幸せを得ることができると教えてくれています。妙法蓮華経

化城喻品第七に登場する天界に住む梵天王という神々もそんな仏さま(大通智勝如来)の

教えを聴き、真の幸せを得るために、わざわざ天界の喜らしを捨ててまで娑婆世界に降り

てくれました。私たちが住むこの世は苦しむことも多いけれど、幸せを感じることができ

る素晴らしき世界でもあるのです。最後に水戸黄門でおなじみの曲を紹介いたします。

### ♪「おゝ人生に涙あり」

作詞 山上路夫 作曲 木下忠司

人生楽ありや苦もあるぞ 涙の後には虹も出る 歩いて行くんだじつがりと 自分の道をふみし

めて

人生涙と笑顔あり そんなに悪くはないものだ なんにもしないで生きるより 何かを求めて生

きようよ

妙法蓮華経化城喻品第七より「我等所從來 五百萬億國 捨深禪定樂 為供養仏故」我がより来

るところは 五百萬億の國なり 深禪定の樂を捨てたることは 仏を供養せんが爲の故なり